

世界に、そして未来に誇れる アカデミアを目指して

奥山 隆平

2023年4月から、医学部長を務めさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

信州大学医学部は人間性豊かで優秀な医療人を育成し、社会へ輩出していくことを社会から求められています。また、学術研究機関として、明日の医学医療を切り開いていく責務を有し、大学院教育等を通じて将来の日本を支える研究者やリサーチマインドを持った医療人を育成する使命を有しています。私はこれらの使命ならびに期待に応えるべく、教育、研究、社会貢献等の多岐にわたる取組みが、相乗的に発展するよう医学部の運営を進めて参りたいと思います。

さらに、医学部を構成する1人1人が素晴らしい明日を夢見て自己実現をかなえるために、前向きな雰囲気醸成することに尽力したいと思います。大学は、私たちに新しい世界を切り開く可能性を提供してくれる場です。人材の育成にしろ、研究プロジェクトの推進にしろ、自分たちの取組みに輝かしい明日が期待できると、些事に拘泥することなく本分に専心しやすくなるはずです。新型コロナウイルス感染の蔓延もあって厳しい状況ですが、成果を積極的に発信することで、「世界に誇れるアカデミア」であり続けねばと思います。

一方、国からの運営費交付金は年々減額され、大学を取り巻く環境は厳しさを増しています。教育や研究に割ける予算、人材を雇用する資金等に関しても余裕がない状況です。科学の進歩は急速であり、世界に冠たる成果を上げていくためには、相応の研究費と多くの優秀な人材の集中が必要不可欠です。これまでの取組みの単なる延長では、如何ともし難い事案も少なくありません。5年後や10年後に現在を振り返った際、あの時に対応すべきであった、と後悔するようなことがないようにせねばなりません。情勢の変化への対応を怠ることなく、将来の自分たちに誇れるよう改善すべき点を変えていかねばなりません。自分たちにとって「未来に誇れるアカデミア」であらねばと考えています。

以下に、教育、研究、社会貢献等について触れさせていただきます。

1. 教育

信州大学医学部は、豊かな人間性と広い学問的視野並びに課題探求能力を身につけた医療人・医学研究者の育成を教育の理念に掲げています。この理念を実現するためカリキュラムの改善が進められ、全国的に高い評価を受けている取組みもあります。現在の優れた教育体制の枠組みを保ちつつ、より洗練されたカリキュラムの確立に向け取り組んで参りたいと思います。

医療の現場では、チーム医療を円滑に行える人材が求められています。この点で、体験実習や医学科と保健学科の合同プログラムなど、チーム医療を視野に入れた教育は大変有意義です。新入生ゼミナールや4年生を対象としたチーム医療演習は医学科と保健学科の合同で行われており、学生は自職種と他職種の理解を深め、チーム医療の重要性を学ぶことができます。両学科合同の講義の充実を通じて、コミュニケーション能力の高いリーダー的医療人の育成を図っていきたいと考えています。

なお、医療人として活動するためには、資格試験に合格する必要があります。近年いずれの領域においても国家試験合格率は国立大学の上位に位置していますが、この結果に満足せず更

なる学力の底上げを実現する一方、留年者や休学者の減少を目指していかねばなりません。そのためには早期の介入が重要であり、試験を突破できない学生に対する学習支援の強化にとどまらず、各講義において介入が必要な学生の抽出を行うことが大切です。医学教育研修センター等の機能を強化するとともに、これをコアとして成績不良学生への支援を進めていきたいと思いをします。

2. 研究

近年、日本の科学競争力の低下が深刻な問題として報道されています。医学系分野における科学研究費の採択状況に関して公開情報を調べてみると、信州大学医学部は必ずしも満足いく状況にありません。新型コロナウイルス感染の蔓延が続き研究に専念しにくい状況ですが、同じ状況の中、他大学の医学部も必死に研究の活性化に努めています。信州大学の医学研究のプレゼンスを輝かせていくために、待ったなしの対応が必要です。皆がより質の高い研究を目指して邁進せねばなりません。ただし、精一杯努力している中で更なる努力を求めても研究の活性化は困難です。自分たちの特長を踏まえ教室、学部、大学の垣根を超えて研究の輪を広げていくことが突破口の1つになるのではないのでしょうか。私たちは県内唯一の医学部として、県内の医療機関と連携し全域の医療を支えています。住民の方々の信頼も厚く臨床データ等のビッグデータを収集し研究を行う上で恵まれた立ち位置にいます。良質な臨床データを大規模に集積し、情報科学を得意とする研究グループと共同研究することで新しい価値を生み出す、といったことも実現可能でしょう。例えば、スマートウォッチ型のセンサーを利用して生体データを集め、AIを用いて健康状態を評価するシステムが構築できると、新たな smart medicine として新規の医療モデルを提言することに繋がります。現在、複数教室が協力して研究を行う教室横断的な研究体制の構築も進められています。医学部として共通の認識を堅持しつつ、互いにサポートし合える心理的安全性の高い研究環境の形成に努めて参りたいと思いをします。

3. 社会貢献

医学部には、優秀で人間性豊かな医療人を育て、地域へ送り出す使命があります。これまでも多くの努力がなされ、多数の卒業生が長野県を中心に活躍してくれています。しかし、県内で働く医療スタッフのマンパワーは多方面で不足しています。長野県全体の医療を支援している信州大学医学部は、近県の医学部と比較すると多くの人口と広いエリアの医療を支援しています。地域医療の充実に貢献していくために、多くの卒業生が長野県内で活躍することを促す環境を醸成することが大切であり、学生が母校に誇りを感じ、自分たちの活躍の場に相応しいと感じられるようにする必要があります。そのためには学生に、私たちの医学・医療における活躍に触れてもらうことが有益ではないのでしょうか。対応策の1つとして、私たちの研究活動や学生との交流を教官と学生が一緒になって編集してSNSを通じて広く発信するといった取組みを試みたいと思いをします。医学部の広報活動になるとともに、学生に私たちの活動に触れてもらうことで、信州大学への愛着を深めてもらうチャンスが広がると思いをします。

以上、私の考えを述べさせて頂きました。医学部の未来を担うのは、職員一人ひとりです。伝統ある信州大学医学部の学生、教職員であることを誇りに思えるよう、「世界に、そして未来に誇れるアカデミアを目指して」、進んで参りたいと思いをします。

(信州大学医学部長)